新世紀のキャンパス
Campus of New Century

神田外語大学 7号館

上空から見た7号館(千葉県千葉市)。屋上から地上まで天然芝のなだらかなスロープが続く。

テレビドラマのロケーションにも使用された美しいファサード。

テラスと屋上緑化庭園は, キャンパスを一望しながら食事を楽しめる憩いの場だ。

この記事は参考になりましたか？ご意見をお聞かせください
※ご使用の環境によってはセキュリティ警告が表示される場合がございます
ご意見・ご感想フォームを開く

1987年に開学した神田外語大学は，「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を建学の理念に“実践的な外国語能力と言語の背景となる地域文化の理解を中心とする幅広い教養教育”を教育の目標として掲げる外国語専門の単科大学だ。カリキュラムは英米語学科，中国語学科，スペイン語学科，韓国語学科，国際言語文化学科，国際コミュニケーション学科の6学科構成で，特に国際言語文化学科は，国際共通語としての英語と地域言語（4言語から1言語を選択）のダブルメジャー。以前より学内から多言語を専門的に学ぶ教育施設が求められていた。大学創立20周年記念事業として昨年9月に完成した7号館は，2003年に建てられた英語の自立型語学学習施設（6号館「SACLA」）の多言語版として，多言語コミュニケーションセンター「MULC（Multilingual Communication Center）」，図書館，カフェなどを備えた複合教育施設だ。

1Fは10万冊の開架図書，12万冊の集密書架，350席の閲覧スペースを備えた図書館だ。論文作成から読書まで，その時の使用目的に応じて使い分けられるよう，デスクやテーブル，椅子やソファもエリアごとに設計されている。

2Fは言語文化体験ゾーンで，上記のMULC，120人収容のシアター型ホール「クリスタルホール」，30人規模の少人数教室「セミナー室」を設置。クリスタルホールでは，スピーチコンテストや小規模の講演会などが行われ，備えつけの大型スクリーンで映画なども上映できる。5室あるセミナー室は総ガラス張りの講義室で，語学の授業を中心に，ゼミやワークショップでも使用する。

世界遺産に登録された港町「ホイアン」の街並みを参考に，旧家の店舗部分を再現したベトナム語エリア。

7号館の目玉でもあるMULCは，中国語，スペイン語，韓国語，インドネシア語，ベトナム語，タイ語，ブラジル・ポルトガル語の7つの言語エリアブースに，それぞれの国の特徴ある街並みや建物を再現した疑似留学空間だ。各ブースにはネイティブ教員が常駐し，豊富な書籍やCD，DVD，衛星放送の視聴，留学生との交流など，現地さながらの外国語環境にひたり，言語と異文化を学ぶことができる。

大学内の施設で自慢したいものを学生に尋ねると，1位「SACLA」，2位「MULC」と，自立型教育施設の人気が高い。「語学力を伸ばすには，自分に最適な学習方法を見つけることが大切。また語学が堪能なだけでなく，相手の文化を理解することが国際社会では不可欠」と玉造美恵入試広報部次長が語るように，「ことばとぶんか」を学ぶ場として，学生の満足度も高いようである。

各ブースでは，ネイティブ教員に様々な相談をするほか，各国の料理・スポーツ・音楽などの文化セッションも開かれる。

屋内外あわせて200席のカフェ。眼前にはブリティッシュガーデンの花々が咲き乱れる。

パスタやベーグルサンド，本格的なエスプレッソなどをサーブするカフェのホールカウンター。

『楽しんで学ぶ』がテーマの図書館では，グループ閲覧室やAVコーナーを活用し自分に合った勉強を組み立てる。

クリスタルホールの各座席には格納式のミニテーブルがあり，プレゼンテーションや講義を受けるのに便利だ。